

## 支部活動

## 中部支部

## □第87回

## 中部肺癌学会

2005年9月17日(土)

アスト津 4階アストプラザ アストホール

当番幹事 金田正徳

(国立病院機構三重中央医療センター呼吸器外科)

### 1. コンベックス型超音波内視鏡下に上中葉間リンパ節穿刺で診断した肺小細胞癌の1例

国立病院機構名古屋医療センター呼吸器科

村越梓美, 梶川茂久, 森 互希  
河田好弘, 下方智也, 田中 繁  
北川智余恵, 沖 昌英, 坂 英雄  
名古屋大学呼吸器内科 片岡健介

症例は57歳, 男性。2005年2月, 検診にて胸部X線右肺門部異常影を指摘。CTにて#11sリンパ節のみ腫大, PETにて同部位に集積像を認めた。気管支鏡検査にて特記所見なく, 診断目的にて当科紹介。4月20日, コンベックス型超音波内視鏡 BF-UC260F-OL8にて超音波下に穿刺を行い, 組織診にて小細胞癌と診断した。化学療法を施行している。

### 2. Y型シリコンステントを留置した子宮内膜間質肉腫肺転移の1例

国立病院機構名古屋医療センター呼吸器科

鈴木康裕, 梶川茂久, 森 互希  
河田好弘, 下方智也, 田中 繁  
北川智余恵, 沖 昌英, 坂 英雄  
県立岐阜病院呼吸器科 浅野文祐  
大垣市民病院呼吸器科 進藤 文

症例は61歳, 女性。1996年3月子宮内膜間質肉腫にて子宮全摘。2000年6月検診にて胸部多発結節影。右上葉無気肺, 生検にて子宮内膜間質肉腫転移と診断。以後, 右主幹に伸びる腫瘍の切除を繰り返す。2004年12月右全肺の虚脱を来し転院。20日, 全麻硬性

鏡下に, 右主幹を完全に閉塞する腫瘍をスネアにて切離, 径14mmのY型TMシリコンステントを留置し, 右肺の含気が回復した。

### 3. 腎癌肺転移による右主気管支閉塞に対する腫瘍摘出ステント挿入の1例

藤田保健衛生大学呼吸器外科

根木浩路, 須田 隆, 服部良信  
長谷川祥子  
同 耳鼻咽喉科

### 4. 巨大胸腺カルチノイドの1切除例

名古屋大学医学部呼吸器外科

戸谷嘉孝, 小橋保夫

症例は, 77歳女性。平成10年に当院泌尿器科で腎癌で右腎臓摘出術の既往歴がある。平成16年3月に右肺上葉に転移し部分切除後, インターフェロンの治療を行っていた。平成17年3月呼吸困難で入院し, 腫瘍による主右気管支閉塞と診断し気管支鏡検査の喉頭麻酔で呼吸困難からショック状態となった。状態が安定し, 放射線治療40Gy後に腫瘍摘出術を予定した。5月20日全麻下にてKTP laser焼灼・腫瘍snear wiring摘出・ステント挿入術を行った。術後6日目に軽快退院し外来通院している。この症例に対し若干の文献的考察を加え検討し発表します。

### 4. 巨大胸腺カルチノイドの1切除例

名古屋大学医学部呼吸器外科

川口晃司, 内山美佳, 安田あゆ子  
伊藤志門, 宇佐美範恭, 横井香平

胸腺カルチノイドは稀な疾患であり, 完全切除が唯一の長期生存を期待できる治療と考えられている。今回巨大胸腺カルチノイドの1切除例を経験したので報告する。患者は47歳の男性で, 胸痛にて近医受診した。精査にて17×15cm大の胸腺カルチノイドと診断された。化学療法が無効であったため, 胸腺腫瘍切除+右肺全摘+心膜・SVC合併切除を施行した。しかし

肉眼的に右肺門から縦隔にかけて癌が遺残し, 術後放射線治療を追加した。

### 5. 初回手術後30年経って再発し残存肺全摘を施行した定型カルチノイド腫瘍の1例

愛知県がんセンター中央病院胸部外科

坂倉範昭, 奥田勝裕, 岡阪敏樹  
森 正一, 波戸岡俊三, 篠田雅幸  
光富徹哉

37歳女性。7歳時, 遷延する肺炎の精査で右中間気管支幹内の腫瘍を指摘され, 右中下葉切除術を受けた。病理はカルチノイド腫瘍。30年経って, 血痰で発症, 初回手術時の中間幹断端近傍に径40mmの腫瘍と気管分岐部リンパ節腫大をみとめ, カルチノイド腫瘍の再発と診断, 残存肺(右上葉)全摘とリンパ節郭清を施行した。病理診断は定型カルチノイドのリンパ節再発・転移であった。

### 6. 葉間浸潤を呈したinflammatory myofibroblastic tumorの1例

厚生連鈴鹿中央総合病院呼吸器外科

水野幸太郎, 深井一郎  
同 病理部 村田哲也, 後藤朋子

患者は53歳男性。発熱と咳嗽を主訴に来院。胸部CTで左S<sup>6</sup>に主座をもち葉間胸膜を超えてS<sup>1+2</sup>に浸潤する腫瘍を認めた。気管支鏡生検では診断がつかず, PET検査ではSUV値4.5と弱い集積を示した。肺癌の可能性も考慮し手術を施行した。術中生検でinflammatory myofibroblastic tumorと診断されたため, 腫瘍からの十分な安全域をおいた肺部分切除術を行った。inflammatory myofibroblastic tumorは, かつてinflammatory pseudotumorと呼ばれることの多かった比較的古い疾患である。文献的考察を加えて報告する。

### 7. 腫胸関連悪性リンパ腫の1例

国立病院機構長良医療センター呼吸器科 加藤達雄, 中島賢憲, 今尾要浩  
安田成雄, 佐野公泰